

園のくらしを育む 14

泣きにみる育ち

秋田喜代美

1 うれしい先生の姿

園庭で子どもたちが遊んでいる。と、仲間と一緒に走っていた四歳の女の子が転んでしまった。参観をさせていただいている私は遠巻きに案じて大丈夫かなと思っていると、友達たちがすぐにそこに集まっている。別のクラスの先生が「大丈夫」と声をかけても火がついたように泣いており泣きやみそうにはない。そこへ別のところにいる担任保育者が寄ってきた。先生は泣いている子どもの傍らにしゃがみ、肩を触ってしばらく声をかけてあげている。と、しゃがんで泣いていた彼女が立ち上がり始めた。「痛かったね。自分で立てたじゃん、偉いじゃん」と言うと先生に向けて「ニコッ」とうなずく。「もう痛くない？ 大丈夫そう？」と先生が尋ねると、こつくりとまたうなずき、そして自分から恐る恐るだが動き始めた。

ほんのわずかの時間の出来事である。日々どここの園でも見かける場面かもしれない。でもその場面を見ながら、この子にとっては他のクラスの先生ではなくて、やはりこの先生でなければならぬのだ、そしてその先生が自分の泣きをそっと手のひらで受け止めてくれ、「自分で立てたじゃん」と、自分が何とかしようとしている気持ちをくみ取ってくれたのを見て、まだ実際は転んで痛かったのかもしれないがその気持ちをどこかにおいて、にこっといい笑顔を先生に向けたのだろう、と思った。

「泣いている子がある。涙は拭いてやる。泣いてはいけないという。なぜ泣くのと尋ねる。……随分いろいろなことはいいもし、してやりもするが、ただ一つしてやらないうちがある。泣かずにいられない心もちへの共感である。」「お世話になる先生、お手数をかける先生。それは有り難い先生である。しかし有り難い先生よりも、もっとほしいのはうれしい先生である。そのうれしい先生は、その時々的心もちに共感してくれる先生である」。(倉橋惣三『育ての心』より)

この倉橋の一節がこの風景の中で浮かんでくる。まだ保育者歴3年目のこの男性保育者は、子どもと共にきつと育っていく先生になっていられるだろうと、その時、春の風に吹かれつつ感じた。家庭ではなく園だからこそ、この子はこのように自分で自分の気持ちを律し、立ち上がることができたのかもしれない。園ならではの泣きの姿かもしれないと思う。

2 泣きと育ち

私が泣きに特に注意するようになったのは、すでに幼稚園教諭を退職されている石川まちゑ先生が、かつて東京都教員研究生として研究しておられた時の報告書『幼児は何で泣くのか―幼児の理解と援助の在り方を探る』を私に送付してくださったからである。石川先生は一人のよく泣く男児について、どのようにその泣きが質的に変化していくのかの事例を集めて研究され、その研究を一つの報告にまとめておられる。そしてその子の事例から、四、五月には内面にある不安感や状況への不適応が原因になって泣いている姿が、次第に他者とかかわりで生じる自我の葛藤が主な要因になって泣いている姿へ、そしてさらには自己の実現への思いに対して、相手が受け入れてくれなくて悲しい、悔しいなどで泣く姿へとその泣きが変化していく姿を描き出している。

石川先生のご研究の話のある会で紹介させていただいたら、また他児の泣きの姿をご紹介くださった先生がおられた。七月に途中入園してきた年少児のAちゃんは毎朝大泣きして登園してくる。でも母親の話では、登園中に泣くが「幼稚園には行きたい」と言っているという。そのうち彼の方から「ママ、帰ってもいいよ、僕ここで泣くから、ママバイバイ」と言いながら登園してきては、わあーと泣いたという。そこには園が泣ける場所になっていったことがわかる。そしてそのうち担任に対して「ここが

いい、ここで泣く、先生あっちへ行つていいよ」と言いながら泣いたりするように変化してきた。友達のお母さんなどが心配して彼に声をかけるとさらに大きな声を出しては泣く。そして泣く場所が玄関から廊下、自分で今日決めた場所へと変化し、ずっと泣いているのから時々泣きやむ姿へ、そしていつしか泣かなくなる関係へと変わっていったという。登園時に泣くので、すぐに園服を着用することができず、日々の活動までにとても時間がかかったという。しかし年長児になってみると、彼は困った友達や泣いている友達に黙って手を貸す姿がよく見られる子になっているという。泣いた子にしかわからない、泣く友達への共感がある。

泣くことにいかに対応するのか、これは子どもの育ちや泣きの原因によっても当然対応が違ってくる。原因を追究したり、教師の思い込みから解決を急いだりしがちである。しかし泣きたい子どもの思いに寄り添うことがその子のその子らしさを育てていくのだと感じたお話だった。

(東京大学大学院)

参考文献

石川まちゑ 『幼児は何で泣くのか―幼児の理解と援助の在り方を探る』平成五年度
東京都教員研究生研究報告書